

# 学校再編ニュース

《第17号》(平成31年1月23日発行)



《発行》小樽市教育委員会(適正配置担当)  
電話 0134-32-4111(内線 537)  
FAX 0134-33-6608  
Eメール gakkō-tekisei@city.otaru.lg.jp

～ 市民の皆さんの理解と協力により学校再編を進めています ～

## 1 新しく山の手小学校、奥沢小学校、花園小学校がスタートしました

平成30年4月1日、緑小学校、最上小学校及び入船小学校の通学区域の一部が統合し、山の手小学校が開校しました。また、天神小学校及び入船小学校の通学区域の一部が奥沢小学校と統合、入船小学校の通学区域の一部が花園小学校と統合しました。

今回の学校再編ニュースでは、統合校として新たにスタートした山の手小学校、奥沢小学校、花園小学校で行われている新しい学校づくりの取組を紹介します。



## 山の手小学校

～天狗山のふもと 地域と共に育つ 学びあふれる学校～

新たに開校した山の手小学校では、「子どもは地域の宝」の理念のもと、これからの時代を生き抜く子どもたちの未来を見据え、学校・家庭・地域が積極的に手を取り合って共に成長し、学校や地域の特性を最大限に生かした教育活動を推進することをテーマに新しい学校づくりの取組を進めています。

教育目標

3つの「合い」で未来を拓く  
山の手の子

すすんで 学び合い  
ゆたかに ひびき合い  
たくましく きたえ合い



歌声活動(全校児童による合唱の練習)

特色ある教育としては、全ての学習の基本となる「国語力を高める指導」、算数科における「少人数指導の実施」、合唱を通じて感性や表現力を高め豊かな心を育成する「歌声活動の充実」、地域資源を活用した「地域連携カリキュラム(公会堂での能楽体験、小樽公園でのマラソン大会、小樽商科大学留学生との交流等)の充実」などに取り組んでいます。



公会堂での能楽体験



小樽公園でのマラソン大会

# 奥沢小学校

教育目標

夢をはぐくむ 奥沢小学校

深く学び 伝えあう子  
なかよく やさしい子  
たくましく やりぬく子

～「夢をはぐくむ」学校～

奥沢小学校では、新しい学校は社会や世界へつながり、未来へ続く夢が生まれる場所であってほしいとの思いから「夢をはぐくむ」という大きなテーマを設定し新しい学校づくりの取組を進めています。

特色ある教育としては、全ての活動の根底となる元気な体と心を育む「健やかな体の育成」、職場見学や出前授業などの体験活動を通じて勤労観や職業観を養い生き方について学ぶ「キャリア教育の充実」、朝読書や読み聞かせ等の活動により読書習慣を身に付け豊かな心を育成する「読書活動の推進」などに取り組んでいます。



サーキット・トレーニングによる体づくり



学校司書による本の読み聞かせ



かまぼこ工場の見学

# 花園小学校

～子どもの豊かな学びを育む 地域とともにある学校～

花園小学校では、「一人一人の子どもをみんなで育てる学校、15の春に責任を持つ学校」を新しい学校づくりのテーマとし、菁園中学校や地域との連携を深め、義務教育9年間を見通した教育の推進に努めています。

教育目標

笑顔いっぱい！いのちかがやけ  
花園の子

特色ある教育としては、命や自然を大切に作る心や態度を養う「いのちの教育」を基盤とし、豊かな心を育成する「なかよし班（1～6年生で編制した班）活動」、朝学習で漢字と四則計算の基礎学力の向上を図る「寺子屋タイム」などに取り組んでいます。

また、菁園中学校と連携し、授業での交流や合同避難訓練、児童会・生徒会による合同あいさつ運動などを行っています。



町会と合同のグリーンロード清掃



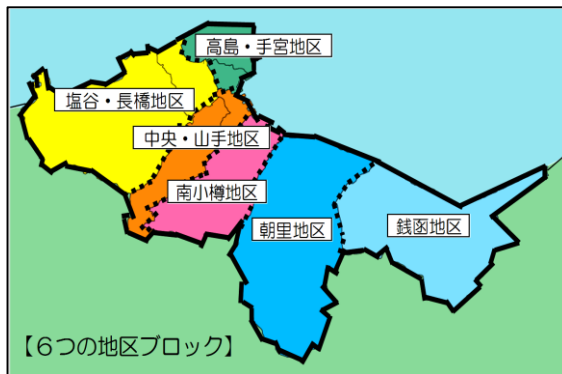
なかよし班の交流



菁園中学校と合同避難訓練

## 2 「小樽市立小中学校 学校規模・学校配置 適正化基本計画」の計画期間前期の点検結果をまとめました

教育委員会では、少子化による児童生徒数の減少や学校施設の老朽化に対応し、教育環境の向上を図るため、平成21年11月に「小樽市立小中学校 学校規模・学校配置 適正化基本計画」（以下「計画」といいます。）を策定し6つの地区ブロック（右図参照）を基本に学校再編を進めてきました。この計画の期間<sup>※1</sup>は、平成22年度から平成36年度の15年間であり、平成22年度から平成29年度までの8年間を「前期」、平成30年度から平成36年度の7年間を「後期」としています。計画期間前期の終了に伴い、計画に基づく学校再編の成果と課題を整理し、平成30年度以降に学校再編を進める際の参考とするため、平成30年6月に計画期間前期の点検を行い結果をまとめました。



前期の学校再編により小学校は27校から18校（▲9校）、中学校は14校から12校（▲2校）となり、統合した学校では、多くの学校で学級数及び教職員数が増加し、学校設備の改善・充実や学校施設の改修などが図られました。一方で、一部の小学校では児童数の減少などにより望ましい学校規模<sup>※2</sup>が確保できない結果となり、また、統合が進まなかった再編対象校では学校施設の耐震化や老朽化対策が進まないなどの課題がありました。

※1 計画では、計画期間前期及び後期の再編対象の地区ブロックを以下のとおりとしています。

前期：塩谷・長橋地区、高島・手宮地区、中央・山手地区、南小樽地区

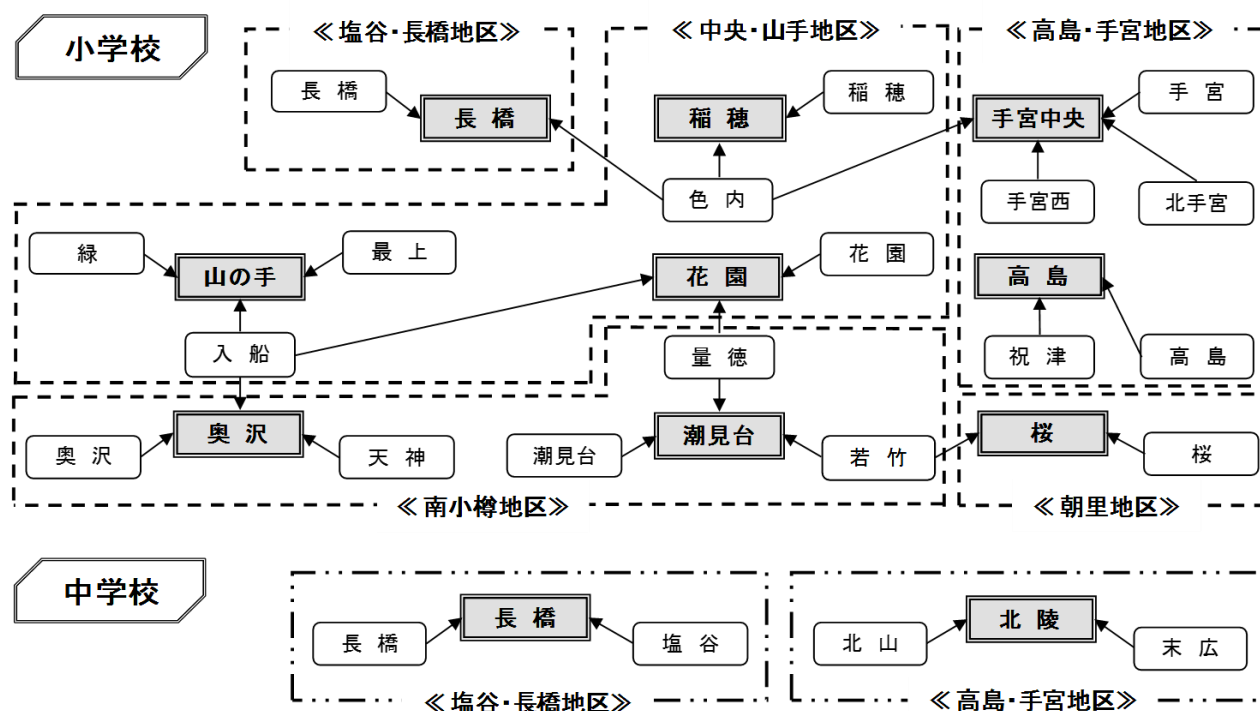
後期：朝里地区、銭函地区

※2 計画では、望ましい学校規模を以下のとおりとしています。

小学校：12学級（各学年2学級）以上、18学級以下

中学校：9学級（各学年3学級）以上、18学級以下

### 【地区ブロック別の再編状況】



※ 色内小学校、量徳小学校、入船小学校、若竹小学校は、通学区域を分けて統合しました。

### 3 「小樽市立小中学校 学校規模・学校配置 適正化基本計画」の見直しを行います

教育委員会は、計画期間前期の点検結果や児童生徒数の推移、国の教育施策の動向などを基に今後の学校再編の進め方について検討を行った結果、平成30年11月に「小樽市立小中学校 学校規模・学校配置 適正化基本計画」（以下「計画」といいます。）を見直し、改めて将来を見据えた学校再編の基本的な考え方について検討を進めることとしました。

#### (1)見直しの考え方

これまで本市の学校再編は、計画に基づき、市内を6つの地区ブロックに区分し、それぞれの地区ブロックで「望ましい学校規模」での再編となるよう全市的な取組を進めてきました。この計画は、計画策定時に推計した平成27年度の児童生徒数（7,600人）を基に再編を進めるものですが、本市の児童生徒数は、人口や出生数の減少に伴い年々減少しており、平成30年に推計した平成36年度（計画最終年度）の児童生徒数は5,600人となりました。

今後、この計画に基づき学校再編を進める場合、平成36年度（計画最終年度）までは大半の地区ブロックで「望ましい学校規模」となる再編が見込まれるものの、一方で児童生徒数の減少が引き続いていることから、将来的に「望ましい学校規模」を実現するためには既に統合した学校において再度の統合が必要となることも想定されます。

教育委員会は、今後の児童生徒数の推移を踏まえるとともに、国における学習指導要領の改訂、小中連携・一貫教育の推進、コミュニティ・スクールの導入促進など、新たな時代の教育活動に向けた各種の教育施策や、本市のまちづくりの施策などを総合的に考慮する必要があることから、今般、この計画を見直し、改めて将来を見据えた学校再編の基本的な考え方について検討を進めることとしました。

#### (2)見直しの進め方

計画は、計画期間（前期・後期）により再編を行う地区ブロックを分けていますが、「望ましい学校規模」の実現を全市共通の考え方としていることから、今回の計画の見直しに当たっては、前期で未実施となった再編対象校及び後期の再編対象校を含めた全市的な見直しを図ることとします。また、学校規模についての考え方の整理をはじめ、国の教育施策の動向や社会的な状況などを踏まえた児童生徒の教育環境の整備に向けた対応、地域の防災・交流拠点としての小中学校の役割、学校と地域の連携や相互支援など、多岐に渡り検討を進めることとします。

さらに、この計画は、学校再編に際して耐震診断結果や学校施設の老朽度合いを考慮し、耐震補強や大規模改修等を実施することとしており、前期の学校再編により統合した小中学校は必要な施設整備が図られましたが、統合が進まなかった再編対象校などは旧耐震や老朽化という学校施設の現状が続いていることから、今後は、児童生徒の安全・安心な環境整備を早期に図るため、学校再編とは切り離して耐震化に向けた検討を進めることとします。

なお、今後、計画の見直しを図り、改めて将来を見据えた学校再編の基本的な考え方について検討を進めることとなりますが、検討期間中においても、児童生徒の減少により学校運営に支障が生じる場合や学校施設の老朽化などにより教育環境の低下が懸念される学校に対しては、個別に関係する学校、保護者、地域との協議を行い、必要な対応を進めることとします。

計画や点検結果は、市ホームページで御覧いただけます。

小樽市 学校再編 で検索